

哲学概論(Philosophy)

担当教員名	家高 洋	
学科・専攻, 科目詳細	電気情報工学科 電気電子工学コース 5年 前期 2単位 学修A 講義	
学科のカリキュラム表	一般科目 選択科目	
共生システム工学の科目構成表	教養科目 人文科学・社会科学系	
学習・教育目標	共生システム工学	A-1(20%) A-2(30%) B-2(20%) C-1(30%)
	JABEE基準1(1)	(a)(b)
科目の概要	前半は西洋近代哲学からその中心的なトピックを学ぶ。デカルトからハイデガーまでの思想を知ることによって、自ら自身で様々な事柄を考える契機としてもらいたい。後半は、応用倫理（生命倫理と技術者倫理）を扱う。こちらは、事例分析を中心として、具体的な場面での様々な判断の是非を検討する。最後は哲学的な問題についてのグループ・ディスカッションを行う。	
テキスト(参考文献)	適宜配布する。	
履修上の注意	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。	
科目の達成目標	・ 西洋哲学・倫理学思想の基本的な歴史を学ぶ。 ・ 生命倫理の基本とその具体的な状況を学ぶ。 ・ 技術者倫理の基本とその具体的な状況を学ぶ。 ・ 「善悪の基準」等について皆で討議しながら基本的認識を得る。	
自己学習	目標を達成するために次の自己学習を行って下さい。 ・ 授業内で配布された資料やノートの記述を熟読し、実際の様々な場面（倫理的なディレンマ等）に対応できるように整理すること。 ・ 授業内で紹介された文献を読み、哲学史ならびに生命倫理や技術者倫理について授業で説明されなかった事象についても理解すること。	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/3以上の欠課
	(1) 論述試験(40%), レポート・発表(40%): 定期試験では、技術者倫理の事例検討と、哲学の基本的な思想についての論述を行い、授業内容の理解を評価する。レポートは、哲学の基本的な問題や、生命倫理と技術者倫理の事例等について毎回の授業の最後を書く。 (2) 授業態度(20%): 学習への取り組みが真面目かどうか、討議への参加が意欲的かどうか、出欠・発言の内容で評価する。 (3) 理解を促進し、より深い考察を行うために、授業時間外に授業時間に検討したことに関連する資料等を読むことを課す。 (4) 以上を総合して、60%以上を合格とする。	
連絡先	h_ietaka@room.ocn.ne.jp	

授業の計画・内容	
第1週	哲学とは？ 哲学と他の知との違い
第2週	西洋近代哲学より 1 真理論の基礎
第3週	西洋近代哲学より 2 倫理学の基礎
第4週	西洋近代哲学より 3 解釈学の問題
第5週	西洋近代哲学より 4 自由の問題
第6週	西洋近代哲学より 5 死の問題
第7週	西洋近代哲学より 6 倫理の問題
第8週	生命倫理 1 医療者と患者との対立
第9週	生命倫理 2 安楽死
第10週	生命倫理 3 脳死臓器移植
第11週	技術者倫理 1 技術者倫理の典型的な事例（チャレンジャー号事件）
第12週	技術者倫理 2 ものを介した倫理としての技術者倫理
第13週	技術者倫理 3 PL法について
第14週	技術者倫理 4 内部告発について
第15週	グループ・ディスカッション 倫理的な問題について
期末試験	